

子どもたちに学ぶ喜びを伝えよう 「いのちの授業」と学校図書館

鹿児島国際大学短期大学部

教授 種村 エイ子

1. 生涯学習時代の本・情報・図書館

自分の人生を自分らしく納得して生きる 自己選択・自己責任の積み重ね

いつでも どこでも 誰にでも どんな本・情報でも届ける図書館が欠かせない

私のガン体験と『知りたがりやのガン患者』(農文協 1996)の発行

1994年進行性胃ガン発見、胃全摘手術を受け、告知を受ける。

手術後は赤ちゃんの辿った途を凝縮して追体験する。

2. 生きる力を育む～ブックトークで伝える「いのちの授業」

『性の授業 死の授業』(金森俊朗著 教育史料出版会)との出会い

子どもに「死」を語ることは、「生」を語ること

1997年3月、村末勇介先生(当時樋脇町立野下小、現在は日置市立上市来小)との出会いで初めての授業が実現、その後全国230校以上の小・中・高校で「いのちの授業」実施 私自身に生きる勇気を与えてくれた絵本(『100万回生きたねこ』、『わすれられないおくりもの』などをブックトークで紹介

ゴールがあるから一生懸命走れる。

4. 『死を学ぶ子どもたち』(教育史料出版会 1998年12月)の発行。

ブックトークの手法で語る「いのちの授業」の実践をまとめたもの。

NHKで「いのちの授業」放映

5. 「死の学習(いのちの授業)」ホームページ開設

鹿屋市寿北小6年担任蔵満教諭(現在は加世田小学校)との出会いで実現、

「種村エイ子の部屋」 <http://www5.synapse.ne.jp/tanemura/>

鹿児島国際大学のなかのサイト <http://www.iuk.ac.jp/tanemura/index.htm>

6. 『シリーズいのちの授業』(ポプラ社)刊行

1巻 「いのちがはじまるとき」 2巻 「いのちがおわるとき」

3巻 「いのちのおもみ」 4巻 「いのちのささえあい」

5巻 「いのちの図書館」

7. 学ぶ喜びを伝える学校図書館

NPO法人「からだところの発見塾」の試み

別刷りの資料参照

種村 エイ子 氏（たねむら・えいこ） プロフィール

1946年 宮崎県えびの市に生まれる。

1969年 京都大学文学部卒業。

京都府立総合資料館に司書として勤務。この間に結婚、出産、子育てを体験。

1978年 夫の仕事の関係で鹿児島市に移住。

1994年 進行性胃ガンと診断され、胃全摘手術を受ける。

現在、鹿児島短期大学、鹿児島経済大学非常勤講師（司書課程担）。かごしま文庫の会代表。昔話を楽しむ鹿児島交流会事務局担当。地域で子ども文庫活動に携わりながら、鹿児島県を中心に九州各地で「おはなし会」の出前や、絵本や児童文学をテーマにした講演会の講師を務めている。

共著書 『地域社会教育論』（高文堂出版社）

『地域生活と生涯学習』（鉾脈社）